

だ美
よ術
り館

contents

〈展覧会紹介〉「真宗の美—親鸞と福井、ゆかりの名宝—」	[2~4]
美術館喫茶室 真宗の美展 スペシャルメニューのご紹介	[4]
日本画の最高峰 再興日本美術院「再興第99回院展 福井展」	[5]
〈イベント報告〉	
ゴッホの原点「オランダ風景画展—ハーグ派の画家たち—」	[6]
平成26年度 キッズミュージアム「ゴッホの絵を立体でつくろう!!」	[6]
〈コラム〉日本美術院草創期	
1905(明治38)年のナショナル・アーツ・クラブ展について	[7]
〈次回のテーマ展案内〉「子どもの世界」「新春展」	[8]
〈展覧会紹介〉「福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩み—中上光雄・陽子コレクションによる—」	[8]
福井県立美術館 次回の美術館交流事業案内	[8]
〈おしらせ〉休館日・貸館情報・次回の企画展	[8]

表紙：【国宝】「三十六人家集(忠岑集)」(部分) 平安時代(12世紀) 京都市・西本願寺



真宗の美

親鸞と福井 ゆかりの名宝

鎌倉時代を代表する仏教者である親鸞聖人(1173～1262[※])により開かれた浄土真宗。その教えは全国に広まりましたが、その過程で名号や御影といった真宗独自の造形品が数多く生み出されました。特に福井県は「真宗王国」とも呼ばれる浄土真宗とはゆかりの深い地域です。県内には数多くの真宗寺院があり、貴重な法宝物や文化財が多数伝えられています。本展は親鸞聖人七五〇回大遠忌を記念して開催するものです。県内真宗寺院所蔵のゆかりの品々と、西本願寺の法宝物・美術品をあわせた、国宝2点、重要文化財9点を含む約110点を一堂に展示し、真宗の歴史と信仰、その美をご紹介します。

※本願寺派は新暦換算のため1263年を没年とする。

第一章 親鸞聖人の生涯と信仰

浄土真宗の宗祖である親鸞は、法然上人に就き専修念仏の教えを修学し、思索を深め、やがてその思想は大輪の華を咲かせました。しかしながら、その道は決して平坦ではなく越後へ流罪に処されるなど、苦難の人生を歩んだ人物として知られています。本章では影像や、絵伝(伝絵)を通して親鸞像を明らかにし、親鸞の思想と信仰を、親鸞が残した著作物から紹介します。また浄土真宗の礼拝対象である阿弥陀如来像や名号を併せて紹介します。



【重要文化財】「歎異抄」 室町時代(15世紀) 京都市・西本願寺

第二章 真宗と福井

福井県内には800を超える真宗寺院があり、真宗十派の内、四本山が所在しています。蓮如上人の吉崎下向や一向一揆は、越前と真宗を語る上で欠かせない出来事として広く知られています。本章では現存資料を通じて真宗の越前流入から一向一揆までの展開を概観します。

ココがPOINT!

本章では織田信長の書状など、歴史ファンにも見応えのある作品が勢揃いしています。



【県指定文化財】「聖徳太子立像」 嘉暦四(一三二九)年 福井市・聖徳寺 ※10/13まで展示

平成26年9月26日(金)～10月26日(日)

休館日◎10月6日(月)・14日(火)・20日(月) 開館時間◎午前9時～午後5時 入館は閉館30分前まで

料 金◎一般1200円(団体1000円)、高・大生800円(団体600円)、
小・中生500円(団体300円)

※団体は20名以上。※学生の方は学生証の提示が必要です。※障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額。

主 催◎真宗の美実行委員会(福井県立美術館、福井新聞社、FBC福井放送、浄土真宗本願寺派福井教区)
特別協力◎西本願寺、真宗教団連合福井県支部
後 援◎福井県教育委員会、(社)福井県文化協議会

9/26～10/5 期間限定公開！

ココがPOINT!

期間限定で展示される国宝「親鸞聖人影像(安城御影副本)」は、親鸞の生前に描かれたとされる「安城御影」を忠実に描き写したものです。損傷の著しい原本に対し、本図は、口をすぼめる表情まではっきりと確認できます。

【国宝】「親鸞聖人影像(安城御影副本)」(部分)
室町時代(15世紀) 京都市・西本願寺



第二章
西本願寺の至宝



【国宝】「三十六人家集(忠岑集)」
平安時代(12世紀) 京都市・西本願寺

西本願寺には、国宝の「三十六人家集」をはじめ、重要文化財の「慕帰絵」(第6巻)や「親鸞聖人絵伝」(旧万福寺)など、長い年月を経て、大切に受け継がれてきた日本美術の至宝をご紹介します。

ココがPOINT!

国宝「三十六人家集」は、多彩な料紙装飾を地に流麗な字を書く、まさに平安時代の貴族の美意識が凝縮した作品と言えるでしょう。本展覧会には、この貴重な冊子が三帖、ほか石山切も五幅出品されます。



【重要文化財】
「慕帰絵」第6巻
観応2(1351)年
京都市・西本願寺

第四章
県内真宗寺院の名宝

福井は中世の一揆による戦乱、そして昭和の戦災、震災を経験しながらも、古き時代の資料、および名宝を今日まで伝えていきます。信仰に篤い人々によって大切に守られてきた県内寺院の名宝をご覧ください。

ココがPOINT!

仏教美術の優品や、桃山時代から江戸時代初期にかけて制作された豪華絢爛な屏風がおすすめです。



【重要文化財】「世界及日本図屏風」の内、「世界図」 福井市・浄得寺



「南無仏太子像」
鎌倉時代(十四世紀)
永平寺町・本覚寺

会期中はイベント満載！

◆講演会（於講堂、聴講無料）

◎9月27日(土) 13:30～14:30

演題「日本絵画の美」

講師：手塚雄二福井県立美術館特別館長

（日本美術院同人理事／東京藝術大学教授）

◎10月4日(土) 13:30～15:00

演題「真宗の美術一見方・考え方」

講師：津田徹英氏（東京文化財研究所文化形成研究室長）

◆学芸員によるギャラリートーク（於会場、要チケット）

◎10月13日(月・祝)、19日(日) 11:00～

◆見どころ解説会（於講堂、聴講無料）

◎会期中の土日、祝日の1日2回(10:00～、15:00～)

鑑賞のツボを学芸員が20分程度で分かりやすく解説します。

※9月27日、10月4日、11日、13日は午後の部は開催いたしません。

※10月19日は午前の部は開催いたしません。

◆てらカフェ（於美術館喫茶室ニホ、1,400円[入場チケット+コーヒー]）

◎10月2日、9日、16日、23日(いずれも木曜日)

9:00～10:00

知られざるお坊さんの日常を、お坊さんがトークする企画です。美術館に併設する喫茶室ニホの美味しいコーヒーと「真宗の美」展覧会チケットを併せて1,400円のセット価格で特別提供！

◆お茶会（於エントランスホール 主催：古儀敷内流 竹風会 福井支部）

◎10月11日(土) 10:00～15:00

本願寺ともゆかりの深い、400余年の伝統を持つ古儀茶道敷内流が添え釜をいたします。

一服300円(菓子付)

※お菓子がなくなり次第、終了します。



新発見・初公開多数！

等身大親鸞聖人坐像と慶派阿弥陀如来立像

展覧会へと向けた調査の結果、県内真宗寺院から優品が発見されました。

本展覧会では、造型的にも、また研究史的にも優れたこれらの作品を初公開します！

ココがPOINT!

「親鸞聖人坐像」は南北朝時代、14世紀中頃の制作になる、県内最古の木造等身大の親鸞聖人像です。頭や手に血管が浮き上がる様子が再現され、まるで目の前に実在するかのようです。「阿弥陀如来立像」は鎌倉時代初期に活躍した仏師快慶の典型的な特徴を示す快慶の工房作と考えられるとても美しい木造の阿弥陀です。福井県内においては、初の確認例となります。理知的な顔立ちにスラリとした細身の体型、整った衣文など、写実的な作風といえます。



「木造親鸞聖人坐像」 ※10/8より展示
南北朝時代(14世紀) 永平寺町・本覚寺



「阿弥陀如来立像」
鎌倉時代(13世紀) 浄光寺布教所梅圃寺

美術館 喫茶室

ニホ

オープンカフェやっています

真宗の美展 スペシャルメニュー

「ほうじ茶と甘納豆のブラマンジェ」のご紹介

ほうじ茶味のブラマンジェとシロップに甘納豆が散りばめられています。

ほうじ茶風味がしっかりついていてとても美味。コーヒーのセットで800円。プラス100円でコーヒーアイスクリームをのせることができます。



Contact

美術館喫茶室 ニホ

open: 9時～19時

closed: 月曜日

tel: 0776-43-0310

無料Wi-Fi

address:

〒910-0017

福井市文京3丁目16-1

福井県立美術館 正面左手

※美術館が休館でも、月曜日以外は営業しております。

日本画の最高峰 再興日本美術院100年

「再興第99回院展 福井展」

―天心の夢、大観の心、福井で出会う感動―

11月14日(金)～11月24日(月)

開館時間◎9時～17時(入館は16時30分まで) 11月22日のみ19時まで(入館は18時30分まで)

会場◎福井県立美術館

主催◎日本美術院 日刊県民福井、中日新聞、福井県立美術館

入場料◎一般900円(前売700円)、大学・高校生500円、中学生以下無料

■関連イベント

◎ギャラリー・トーク

観覧券が必要/申し込み不要

[講師] 手塚雄二福井県立美術館特別館長

(日本美術院同人理事/東京藝術大学教授)

[日時] 11月14日(金) 10時～10時半

*

[講師] 清水由朗(日本美術院同人/内閣総理大臣賞受賞)

[日時] 11月15日(土) 11時～14時

*

[講師] 高島圭史(奨励賞受賞/富山大学准教授)

[日時] 11月23日(日) 11時～14時

◎清水由朗同人によるサイン会

[日時] 11月14日(金) 16時～16時40分

[場所] 1階エントランスロビー

◎ふくい天心美術塾 講演会「日本画の魅力」

入場無料

[講師] 手塚雄二福井県立美術館特別館長

(日本美術院同人理事/東京藝術大学教授)

[日時] 11月14日(金) 13時半～14時半

[場所] 講堂

ふくい天心美術塾は福井ゆかりの近代美術の先覚者・岡倉天心にちなみ、昨年からはじめたもので、将来の芸術家を育てる目的で行なわれています。今回は天心が最も力を入れた日本画について、その魅力を紹介します。

◎中・高校生の日本画作品展

入場無料

[期間] 11月14日(金)～16日(日) 3日間

[場所] 1階ギャラリー

◎お茶席 (協賛:一般社団法人 福井茶の湯同好会)

[日時未定] 会期中の日曜日で予定

[場所] 1階エントランスロビー

◇問い合わせ先 日刊県民福井 (TEL.0776-28-8618)

【日本美術院展覧会(院展)について】

1898(明治31)年、近代日本を代表する美術指導者であり、思想家であった岡倉天心は大学の上に大学院があるように、美術学校においても美術院の設置が必要であるとの考えから、橋本雅邦、横山大観、菱田春草、下村観山らと日本美術院という美術研究団体を設立しました。1913(大正2)年9月に天心は逝去しますが、その遺志を引き継いで横山大観、下村観山らが1914(大正3)年9月に日本美術院を再興、10月に再興記念展覧会を開催しました。これが日本画の公募展覧会、院展として現在に至ります。

当館では昨年、「生誕150年・没後100年記念 空前絶後の岡倉天心展」を開催しました。そして今年は天心の設立した院展が再興されて100年にあたり、記念年が続きます。

今回の福井展では、手塚雄二福井県立美術館特別館長をはじめとする日本美術院同人の新作、招待、日本美術院賞をはじめ、奨励賞など入賞の全作品、北陸在住および出身作家の入選作、その他の優秀作品を90点紹介します。岡倉天心から脈々と引き継がれる日本画の革新の精神をご覧ください。



「岡倉天心先生像」福井市中央公園
篤志家の寄付により岡倉天心福井県顕彰会が天心生誕120年を記念して1982(昭和57)年に建立。制作は平藤田中の弟子・伊藤禮太郎、台座の文字は天心と親交のあった京都清水寺貫主・大西良慶師、碑文はボストン美術館館長・ヤン＝フォンテンに託された。

【手塚雄二特別館長に聞く 一作品への思い―】

―今回の院展にご出品された、手塚先生の新作「春夜」についてお話しただけませんか。

手塚 去年と今年、二年続けて上野に夜桜を見に行きました。満開の桜の下には何かがあると思うんです。とくに夜桜には。以前画廊の展覧会で30号くらいの小型作品に月下の桜を描きましたが、そのくらいがちょうどよくて、院展に出すような大きな絵は無理ではないかと思っていたのです。ところが軽井沢でスケッチをしていたとき、さっと風が吹いて、塩沢湖の湖面全体にさざなみがたつという風景に出くわしたのです。そのとき、ここに夜桜があったらどんなにいいだろうって思ったのです。だから今回の作品は、実は心の中で作り上げたもので実際には存在しない風景なのです。

―全体が紫色であるのが印象的で、このような色使いの春の風景画を見たことがありません。この紫には何か思い入れがあるのでしょうか？

手塚 紫は好きな色です。紫と金が好きなのですよ。特に紫というのは青なのか赤なのか分からない色でしょう？赤が過ぎると赤紫、青が過ぎると青紫と、ちょっとしたことで変化して、一歩間違えると下品になってしまいます。今までの作品においても紫は使っていましたが、今回初めて全体を紫にしてみました。描くときに「よし、紫だ！」と思ったのですよね。おかげで異空間のように感じているかもしれません。アトリエで描いていたときはもう少し暗い紫で、図録の画像のような感じだったのだけれども、都美術館だと照明を当てるので、かなり明るく目立って見えますね。そして皆、この紫について強く反応してくるのですよ。まあ、当たり前景色を当たり前前に描いて印象にも残らない絵より、何か引っ掛かるような絵を描きたいと思っていますから、これでいいのです。

(9月2日の院展初日、東京都美術館にて)



手塚雄二特別館長と院展出品作「春夜」
(9月2日、東京都美術館にて)

「オランダ風景画展 ゴッホの原点 —ハーグ派の画家たち—」

2014年7月11日(金)～8月24日(日)
主催：福井県立美術館 共催：FBC福井放送

《イベント報告》

福井県立美術館では7月11日(金)から8月24日(日)まで、ゴッホの原点「オランダ風景画展—ハーグ派の画家たち—」を開催しました。

本展は、若き日のゴッホにも強い影響をおよぼした、19世紀オランダのハーグで活動した「ハーグ派」と呼ばれる画家たちに焦点を当てた日本初の展覧会です。オランダのハーグ市立美術館の所蔵作品を中心に、クレラー＝ミュラー美術館や国内に所蔵されるバルビゾン派やゴッホの初期作品もあわせてご紹介しました。ゴッホやモンドリアンに至るオランダ近代絵画史の余り知られていない一面をご覧いただける貴重な機会となりました。

会期中は、「特別講演会」や「見どころ解説会」「学芸員によるギャラリートーク」「学校鑑賞会」「美術館学芸員トークサロン」の実施をはじめ、図書館や書店との連携イベントも開催され展覧会を彩りました。夏休み期間ということもあり、子どもや親子を中心に2万人を超える皆様に、貴重な展覧会を楽しんでいただきました。

*

◎関連イベント

記念講演会「知られざる ゴッホとハーグ派」

8月9日(土) 10時30分～ 当館講堂にて

講師：古谷可由(ふるたに・よしゆき)氏

(公益財団法人ひろしま美術館学芸部長、本展監修者)

*

◎学芸員によるギャラリートーク

7月27日(日)、8月3日(日) 各10時～ 当館展示室にて

*

◎見どころ解説会

会期中 [平日] 午前10時～ [土曜、日曜、祝日] 10時～、15時～

当館講堂にて

鑑賞のツボを学芸員が20分程度で分かりやすく解説

*

◎美術館学芸員トークサロン「展覧会ができるまで」

8月9日(土) 17時～18時 美術館喫茶室ニホにて



記念講演会 古谷可由氏



美術館学芸員トークサロン



学校鑑賞会



来場1万人 記念品贈呈

平成26年度 キッズミュージアム

「ゴッホの絵を立体でつくろう！」

7月23日(水)、24日(木)、25日(金)の3日間、キッズミュージアム「ゴッホの絵を立体でつくろう！」を開催し、定員をはるかに上回る95名の子も達に参加しました。学芸員の子も向けギャラリートークで「オランダ風景画展」を鑑賞後、パネルや加工された和紙等でゴッホの作品「白い帽子をかぶった農夫の顔」を立体化。参加した子ども達も作品の出来栄に狂喜乱舞する等、大いに盛り上がったワークショップとなりました。

[日時/参加人数] 7月23日(水) 午前9時～/32名、7月24日(木) 午前9時～/35名、7月25日(金) 午前9時～/28名

[講師] 内藤秀信(ペーパークラフトモデラー)、西村直樹(学芸員)



※画像は承諾を得て掲載しています。

ニューヨークの一流のクラブであるナショナル・アーツ・クラブで、約110年前の1905(明治38)年、岡倉天心率いる日本美術院の展覧会が行われた。出品者は当時ニューヨークに滞在していた横山大観、菱田春草、留学先のイギリスから作品を送った下村観山の3人である。その展覧会は現在クラブのある場所(15番地グラマシー公園南)ではなく、1906(明治39)年の移転前の住所、37と39番地西34通りにおいて開催された。

2012(平成24)年、このナショナル・アーツ・クラブを訪ね「紳士はジャケット着用」という印象的な注意書きが貼られた受付で聞いてみると、歴史資料はすべてワシントンのスミソニアン協会にあるという。よってワシントンのアメリカ美術アーカイブのマイクロフィルム資料^(註1)にあたったところ、日本美術院の展覧会については以下のデータの所有が確認された。

—「会員のための覚書」より

1月4日 水曜、1月4日午後3時。日本美術院(日本美術アカデミー)の会員の展覧会。この展示は1月21日に閉会する。

1月4日 水曜、1月4日午後8時30分。岡倉覚三氏が「日本美術についての話」と題した講演を行う。

《展覧会への入場券》

ナショナル
アーツ クラブ
ニューヨーク

No. 37と39
西34通り
マンハッタン

許可 _____ と友人

午後2時から6時の間
日本美術院(日本美術アカデミー)の会員の
展覧会をギャラリーで閲覧する

展覧会は1905年1月4日開会し1月21日閉会

《天心の講演会への入場券》

ナショナル
アーツ クラブ
ニューヨーク

No. 37と39
西34通り
マンハッタン

許可 _____ と友人

1905年1月4日、水曜日、
午後8時30分からの岡倉覚三氏の
ギャラリーでの講演会“日本美術”

_____ 会員

つまり、展覧会は1月4日から21日まで、連日午後2時から6時(初日のみ3時から)まで。1月4日の午後8時半には天心の講演会「日本美術」についての話があり、それぞれに入場券が必要だったということである。

この入場券を見る限り、観客はクラブ会員とその友人に限定されていたようだ。当時の新聞記事でも天心の講演が「クラブ会員とゲストに対して」^(註2)なされたとあり、観客の限定性を裏付けている。1904(明治37)年4月に大観と春草は同じくクラブ組織であるセンチュリー・アソシエーションで2人展を開催したが、そこでは会員とそのゲストに限り4月9日から、一般に対しては12日からと展覧会初日に時間差はあるものの、ナショナル・アーツ・クラブよりは随分緩やかな観客制限であった。

今回の調査では残念ながら

らナショナル・アーツ・クラブ展の出品リストの実物は見つけられなかったが、スミソニアン協会ではこの他にフリー・ア・ギャラリー図書室でセンチュリー・アソシエーション展の出品リスト、1904年11月の大観、春草、観山、六角紫水の4

日本美術院草創期 1905(明治38)年の
ナショナル・アーツ・クラブ展について

学芸員 佐々木美帆

コラム

column

人がケンブリッジのオリ・ブル邸で開催した展覧会の出品リストを所有していた。

日本美術院の海外展は、世界情勢や岡倉天心の活躍など、複雑な要因が絡んでくるのだが、紙面の都合によりその説明は次回に譲り、最後に1905年1月5日付のニューヨーク・タイムズ紙に掲載されたナショナル・アーツ・クラブでの作品評の紹介で締めくりたい。

壁に掛かった絹や紙の絵は、我々が印象派的(impressionistic)と呼ぶべきものであった。自然の光と空気を写したものの、象徴的なもの、日本の神話に関するものなどがある。妖精の羽衣は池のほとりの木に掛けられて、そこには富士山という美しい山の円錐が月光に照らされ、逆さまに映り込んでいる。羽衣は、世界中にある超自然的存在の話の、素晴らしい、より詩的な表現による変形であって、彼女の鳥の肌を運の良し人間にとられてしまうと、逃げられなくなってしまふというものだ。他にはヘルメスのような日本の神の使いが、片手を前方へ突き出して空中をかけており、片足を青、もう片足をピンクの蓮の花に置いている。高所から望んだ海の風景で水平線に四角い帆の漁船が点在するものや、船やボートがない荒れた海、奇妙で暗い突き出した木々、たそがれ時の浜辺、まるで巨大な城のような切り立った崖など、彼らの詩的な感情を描いたのだろう。また、古木の枯枝が深淵にまたがって伸びている様子は、痩せこけた二匹の龍が“魂の宝珠”を表す満月でたわむれているようすを暗示し、それは日本の彫刻作品でよく見られるものである。

(註1) 'National Arts club' Roll No. 4260. Archives of American Art, Smithsonian Institution.

(註2) *New York times*. Jan 5, 1905

下村観山《不動明王》1904(明治37)年頃 山種美術館

観山はナショナル・アーツ・クラブ展で“Fudo (Japanese Hermes)”、ケンブリッジ展で“Fudo”を英国から送って出品した。両者が同じ絵であるかは不明である。ただし、今回紹介したニューヨーク・タイムズ紙に、まさにこの絵と思われる作品評が載っていることが興味深い。山種美術館所蔵作は元々渡英時代の作品と同様の落款があることから、渡英中の作品と考えられるが、今回紹介した新聞の作品評から英国からアメリカに送ってナショナル・アーツ・クラブ展に出品した作品という可能性が高まった。



今回のテーマ展案内

11/29(土)～12/23(火)
「子どもの世界」

家族で楽しめる、いわさきちひろの
「日本童話かるた」などを展示。



作者不詳
《動物の学校(メリーランド)》

1/3(土)～1/25(日)
「新春展」

狩野常信《花鳥図屏風》を
修復後初公開！



狩野常信《花鳥図屏風》(右隻)

休館日◎12月8日(月)、1月19日(月) 開館時間◎午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)
観覧料◎一般・大学生100円(高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料)

福井の小コレクター運動と アートフル勝山の歩み

—中上光雄・陽子コレクションによる—

平成27年1月3日(土)～2月8日(日)

休館日◎1月19日(月)

開館時間◎午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

観覧料◎一般・大学生100円(20名以上の団体は2割引)

高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料

主催◎福井県立美術館



瑛九「黄色い影」

本展は、中上光雄・陽子夫妻が小コレクター運動、そしてアートフル勝山の会の活動を推進する過程で収集してきた作品群を一堂に披露し、福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩みを照射しようとする試みである。

福井県立美術館 次回の美術館交流事業

ふるさと知事ネットワークによる美術館交流事業

東山魁夷展／長野県信濃美術館コレクション展

“ふるさと知事ネットワークによる美術館交流事業”の第3弾として、平成26年度は長野県信濃美術館のコレクションから、昭和の日本画壇を代表する東山魁夷の作品を中心に日本画、洋画の名品約50点や貴重な資料を借用し、コレクション展を開催します。

東山魁夷は風景画家として独自の世界観を形成し、戦後の日本画に大きな足跡を残しました。そして今もなお、燦然と輝き続ける画業を「白馬の森」をはじめとする名品で紹介いたします。

会期◎平成27年2月20日(金)～3月22日(日)

開館時間◎午前9時～午後5時(入館は閉館の30分前まで) 休館日◎3月2日(月)



東山魁夷「白馬の森」



東山魁夷「夕紅」

お知らせ

◎2014年10月～12月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。

10月6日(月)、14日(火)、20日(月)、27日(月)～31日(金)、11月6日(木)、10日(月)～13日(木)、25日(火)、26日(水)、12月8日(月)、29日(月)～2015年1月2日(金)

貸館情報 [11/7～12/22]

11/7～9 ● 第34回近畿高等学校総合文化祭福井大会
11/28～30 ● 第44回若越書道会展
12/4～7 ● 第64回福井県勤労者美術展
12/4～7 ● 永岡章遺作展

12/4～7 ● 爽和会 日本画展
12/9～14 ● 「2014」 写遊倶楽部写真展
12/11～14 ● 第19回謙慎書道会甲信北越展
12/19～22 ● 第64回福井書法展